

令和3年2月20日 第65号

柳川郷土研究会
季刊誌

瓦版

発行所 柳川郷土研究会

発行人 武松十治男

編集 金子俊彦・塩塚純夫



無財の「ほごし」

去年の暮もおしつまったある夜のこと。

タクシーの中に鞆を置き忘れてしまっ

た。車を降りて十数歩も行かぬうちに気

づ埋 がついたが、もうあとのまつり。

そのあくる日には、建築会社に少しまとまった代金を支払うことになっていた。それに必要な通帳の印鑑が鞆に入れてあった。ものそれ自体は惜しくはないが、これがないと明日の支払いに間に合わせる事ができない。暮にきて、業者のかたもあてにしておられる筈だ。私は途方にくれて一夜を過ごした。

朝、電話のベルが鳴る。出てみると、

「鞆をお預かりしております。明日お届けしましょう」という運転手さんの声が聞こえてきた。

「ほごし」は財ばかりではない。無財の「ほごし」もまた尊いものだ。私は大きなほごしをいただいた感謝に、思わず手を合わせていた。

一般的な考え方(武末十治男)

前文のような無財のほごしが出来る人が日本と言わず世界各国に100%近く居られたら世の人々が安泰の心で過ごせると思います。そんな心かけの気持ちで生きる幸を願っています。